

建設現場仮囲いに、鳥栖西中学校美術部生徒さんの絵を掲示しました。

8月29日、サガハイマットの建設現場で、地元の鳥栖市立鳥栖西中学校美術部の生徒さんが描いてくださった絵の除幕式を行いました。

当センターをイメージして描かれたこの絵は、美術部の3年生が中心となり、放課後や夏休みを利用して描き上げてくれたもの。画用紙に描かれた絵を2メートル四方に拡大し、サガハイマットの建設現場仮囲いに掲示しました。

「大きな木はサガハイマットを、大きな葉っぱはここで働く医師や看護師をイメージして描いた」というこの絵のように、サガハイマットも多くのの方の笑顔を支える施設に育てていきたいと思えます。



サガハイマット通信

VOL.1 (平成23年 創刊号)

寄附のお願い

九州国際重粒子線がん治療センター開設へ、ご寄附のお願い

当財団では、事業費の大半を寄附で賄うこととしており、「九州国際重粒子線がん治療センター開設支援募金」への多くの方々のご協力をお願いしております。

「がん撲滅」を通じて一人ひとりの命を支えていく事業の趣旨をご理解いただき、寄附への協力をお願い申し上げます。

なお、当財団へ寄附いただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。

[税制上の優遇措置]

法人（普通法人） 一般の寄附金の損金算入限度額とは別枠で損金算入できます。

①一般の寄附金の損金算入限度額

$$\left(\text{資本金等の額} \times \frac{2.5}{1000} + \text{所得金額} \times \frac{2.5}{100} \right) \times \frac{1}{2}$$



②特定公益増進法人への寄附金の特別損金算入限度額

$$\left(\text{資本金等の額} \times \frac{2.5}{1000} + \text{所得金額} \times \frac{5}{100} \right) \times \frac{1}{2}$$

これらの優遇措置を受けるためには、確定申告を行う必要があります。(申告にあたっては、税理士、公認会計士若しくは最寄りの税務署にご相談ください。) 確定申告には、当財団発行の「領収書」が必要になります。

個人 一定額を所得税の税額から直接控除する「税額控除」が受けられます。

$$\left(\text{寄附金合計額} - 2,000 \text{円} \right) \times 40\% = \text{控除対象額}$$

(その年の総所得金額等の40%が上限) (所得税額の25%が上限)

※このほか、佐賀県の個人県民税や、佐賀県内の個人市町村民税の控除が受けられることがあります。

これらの優遇措置を受けるためには、確定申告を行う必要があります。(申告にあたっては、税理士、公認会計士若しくは最寄りの税務署にご相談ください。) 確定申告には、当財団発行の「領収書」及び行政庁から当財団に対して発行された税額控除対象法人の「証明書の写し」(領収書とともに当財団からお送りします)が必要になります。

※詳しくは、財団ホームページをご覧ください (<http://www.saga-himat.jp/please.php>)。

●お問い合わせ

発行元：公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)落合
電話：0942-81-1897 ファックス：0942-81-1905
住所：〒841-0033 佐賀県鳥栖市本通町1丁目802番地3
HPアドレス：<http://www.saga-himat.jp/>

平成23年11月発行



西方向から見たイメージです。

サガハイマットは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です。



がん治療の可能性を広げる一助に

公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団

ととき ただひで
理事長 十時 忠秀

今や日本人の2人に1人はがんにかかる時代を迎え、3人に1人が、**がんで**亡くなられています。当財団は、患者さんの**がん**に対する不安や負担を少しでも減らしたいとの思いを実現するため、重粒子線を使った最先端の**がん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター（愛称：サガハイマット）」**の平成25年春開設に向けた取組を進めています。

このたび、重粒子線治療の特徴やサガハイマット開設に向けた進捗状況などを紹介するサガハイマット通信を創刊しました。サガハイマット通信によって、重粒子線がん治療への関心を深めていただき、**がん患者の皆様の治療の可能性を広げる一助**になれば幸いです。

治療の特徴

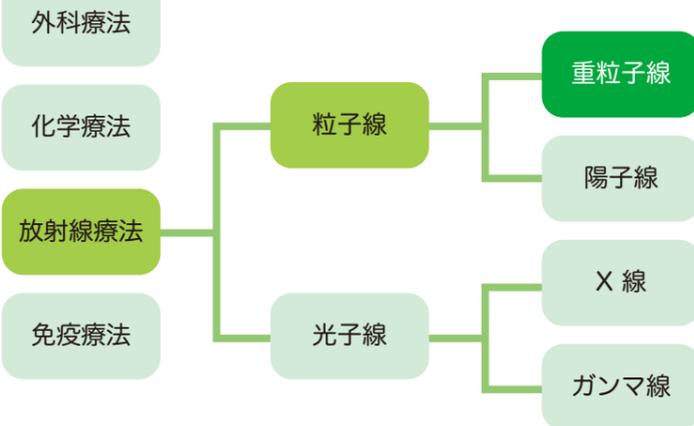
■ 重粒子線がん治療とは

がんの治療法には外科療法、化学療法、放射線療法、免疫療法があり、重粒子線がん治療は放射線療法のひとつです。放射線療法に使われるのは、光子線（エックス線やガンマ線）と粒子線（陽子線や炭素線）に大別され、粒子線の中でも陽子より重い原子核を持ち、質量が12倍もあるのが炭素線でこれを重粒子線と呼びます。炭素イオンを、加速器で光速の約70%まで加速し、がん病巣に狙いを絞って照射します。

がんの治療法



写真提供：(独)放射線医学総合研究所

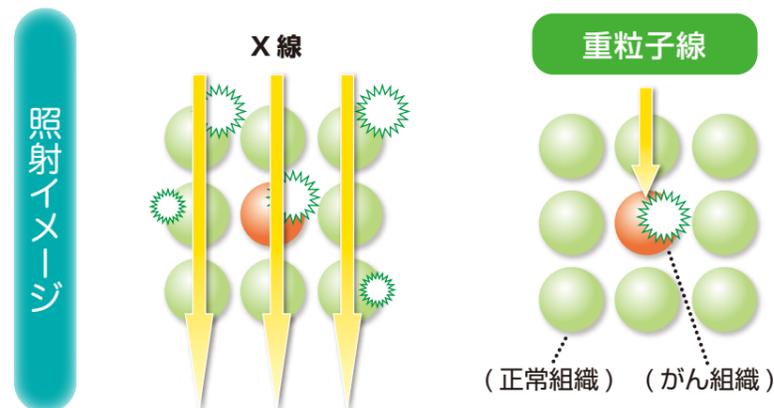


■ がん細胞をピンポイント照射

従来の放射線治療で使われるエックス線やガンマ線は、がん病巣に対して体外から照射すると、体の表面近くで放射線量が最大となり、それ以降は次第に減少していき、体の深いところにあるがん病巣に十分なダメージを与えることができません。また、がん病巣以外の正常細胞にもダメージを与えてしまいます。

一方、重粒子線や陽子線は、体の表面では放射線量が弱く、一定の深さで放射線量がピークになる特性を持っています。この線量がピークになる深さをがん病巣の位置に合わせることでがん病巣だけを集中的にたたき、周りの正常細胞へのダメージを抑えることが可能です。

重粒子線は、陽子線よりもさらに線量集中性、がん細胞に対する殺傷能力が大きいため、照射回数をさらに少なく、治療期間をより短くすることが可能となるため、より大きな治療効果が期待できます。



スタッフ紹介

工藤 祥 博士(前佐賀大学医学部 教授)が、サガハイマットのセンター長に就任。

サガハイマットのセンター長に、9月、前佐賀大学医学部教授の工藤 祥 博士(60)が就任しました。工藤センター長は、大分県生まれ、九州大学医学部卒業後、九州大学放射線科に入局、その後、佐賀大学医学部附属病院で長く放射線診断や放射線治療に携わりました。



地域のためになる施設に育てたい

サガハイマットは外来専門というのが最大の特徴です。入院施設がない分、治療後の経過も含め細かいケアをきちんと行っていくために、各病院との情報共有が重要です。そういった観点からも、がん拠点病院を中心とした九州・山口各県のネットワークをきちんと構築する必要があります。

サガハイマットを地域住民のためになる施設に、さらには重粒子線がん治療の西日本の拠点に育てていきたいと思えます。

サガハイマット建設状況



平成23年10月11日現在
地上躯体工事(高層部分の壁、床工事)が進んでいます。

サガハイマット

Q. サガハイマットってなに？

A. サガハイマットとは、「SAGA Heavy Ion Medical Accelerator in Tosu」(鳥栖にある佐賀の重粒子イオン医療用加速器施設)の頭文字をとったもので、施設の愛称です。サガハイマットは今年2月に着工。建設地は九州新幹線「新鳥栖駅」前。来年10月頃に建物が完成し、治療装置の据え付けや調整期間を経て平成25年春のオープンを予定しています。